日本化学工業株式会社
Nippon Chemical Industrial Co.,Ltd.

〒136-8515 東京都江東区亀戸9丁目11番1号
TEL 03-3636-8074 FAX 03-3636-8132
URL:http://www.nippon-chem.co.jp

Copyright (C) 2015 Nippon Chemical Industrial Co., Ltd. All Rights Reserved.

Responsible Care®
OUR COMMITMENT TO SUSTAINABILITY

環境・安全報告書
RCレポート 2015

日本化学工業株式会社

CONTENTS

CONTENTS／表紙解説 ・・・・・・・・・ 2

ごあいさつ ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

会社概要 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4

日本化学社員行動指針
レスポンシブル・ケア基本方針 ・・・・・・・・ 5

RCマネジメント ・・・・・・・・・・・・・ 6.7

保安防災への取り組み ・・・・・・・・・・・ 8.9

地域とのつながり ・・・・・・・・・・・・・ 10.11

化学物質の安全管理 ・・・・・・・・・・・・ 12.13

労働安全衛生活動 ・・・・・・・・・・・・・ 14.15

環境パフォーマンス ・・・・・・・・・・・・ 16.19

RC監査で見つけた「見える化」 ・・・・・・ 20.21

環境会計 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 22

サイトレポート ・・・・・・・・・・・・・・ 23.25

豊かな暮らしのために（製品用途） ・・・・ 26.27

この報告書は、環境省の「環境報告書ガイドライン２０１２年版」、ＧＲＩの「持続可能性報告のガイドライン」等を参考にして作成しました。また、環境保全のみではなく製品安全・保安防災・労働安全衛生・地域社会との対話についても記載しております。

対象年度：２０１４年度
（２０１４年４月～２０１５年３月）
※一部集計期間の異なるデータがあります。
事業場範囲：会社概要に記載の国内事業所
発　行　日：２０１５年１１月４日
（次回発行：２０１６年１０月）
作成部署：日本化学工業株式会社
作成委員：
生産技術本部
福島第一工場　環境安全・品質保証課
福島第二工場　環境安全・品質保証課
愛知工場　環境安全・品質保証課
徳山工場　環境安全・品質保証課
生産技術部　環境安全グループ

問合せ先：
〒136－8515
東京都江東区亀戸９丁目１１番１号
ＴＥＬ　０３－３６３６－８０７４
ＦＡＸ　０３－３６３６－８１３２

より詳しい情報につきましては、ホームページをご覧下さい。
http://www.nippon-chem.co.jp

２０１３年の表紙
何を想像しますか？たまご・・・種？？
当社の企業理念は『化学に新しい風』、その風を吹き起こすための創造力や飛躍力の詰まった「たまご」、あるいは「種」をイメージしています。

２０１４年の表紙
どんな花が咲くのかな？
創造力や飛躍力の詰まった「種」から「芽」が出ました。人の心を豊かにできる花が咲くといいな。

今年の表紙
季節の花をまとったバレリーナが優雅に舞います。それぞれの季節に花が咲くように、ニーズに合った製品・商品をタイムリーに提供します。

ごあいさつ

環境にやさしく、安全で開かれた化学企業を目指します。

代表取締役 兼 専務執行役員　棚橋 洋太
取締役会長　棚橋 純一
代表取締役社長　鈴木 義博

当社では、各種パトロール、ヒヤリハット活動、リスクアセスメント等々さまざまな活動を通して環境、安全、健康の確保に努めてまいりましたが、全社での「ゼロ災害」は達成できておりません。
また、保安事故も発生しており、近隣の住民の皆様、行政官庁などの関係先、お客様に大変なご迷惑、ご心配をお掛けしており、深くお詫びを申し上げます。

今年６月、事業所で取り扱われている化学物質（ＳＤＳ交付義務のある６４０物質）について、その危険性又は有害性等の調査（リスクアセスメント；以下ＲＡ）の実施の義務化等、「労働安全衛生法の一部を改正する法律」が施行されました。法遵守を念頭において自社の指針を見直し対応を進める所存です。
このような背景から、今年の社長方針には「安全」を企業風土として定着させ、災害のない働き甲斐のある**明るい職場環境の構築**を掲げております。社員ひとりひとりの対話力を高めて安全な明るい職場環境を作り上げてまいります。

当社では、「**人を大切に、技（わざ）を大切に**」という企業理念のもと、地域共生をより深めるためにリスクコミュニケーションの重要性を認識しながら、**“人の幸福に貢献する開かれた化学企業、社会から信頼される企業”**を目指していく所存です。
また、コンプライアンス確保を経営の根幹とし、日本化学社員行動指針のもと法令の遵守だけでなく、保安・安全の確保、社会的責任や様々な要求に応えながら事業を発展させてまいります。

このＲＣレポートの発行も今年で第１４号となります。今後も全社が一体となってレスポンシブル・ケア活動の進展に努めてまいります。当社のレスポンシブル・ケア活動に際し、皆様からのご指導、ご鞭撻を賜ることができれば幸甚でございます。

２０１５年１１月

会社概要

（２０１５年3月３１日現在）

名　　称：　日本化学工業株式会社

(Ｎｉｐｐｏｎ Ｃｈｅｍｉｃａｌ　Ｉｎｄｕｓｔｒｉａｌ　Ｃｏ.,Ｌｔｄ.)

本社所在地：　東京都江東区亀戸９丁目１１番１号

創　　業：　明治２６年（１８９３年）９月

設　　立：　大正　４年（１９１５年）９月１０日

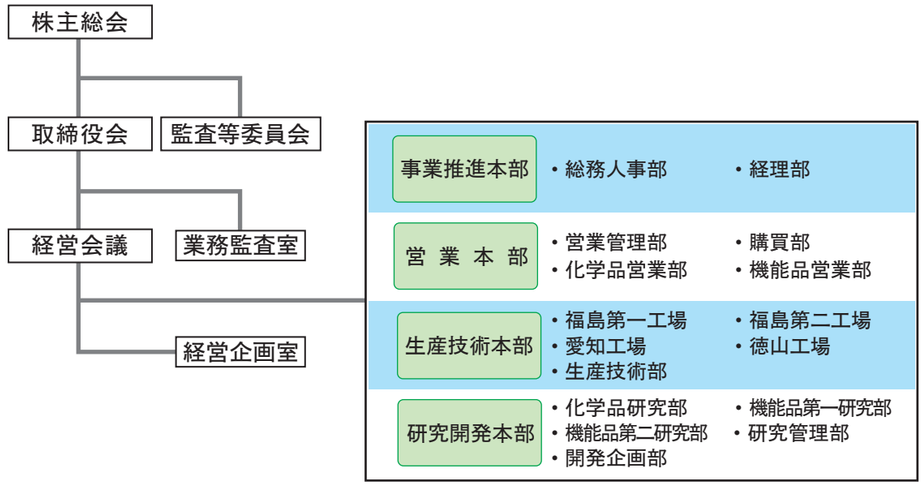
代表取締役社長：　鈴木　義博（すずき　よしひろ）

資　本　金：　5,７５７百万円

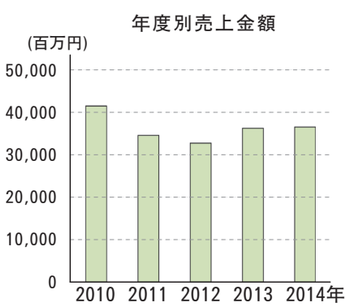
（発行済株式総数８９,２２７,７５５株）

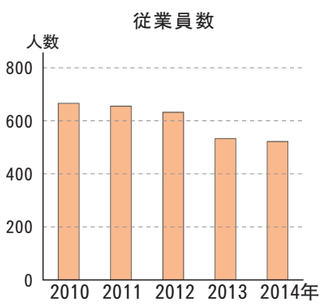
従　業　員：　５２２人

組織図



売上金額および従業員数





日本化学社員行動指針
レスポンシブル・ケア基本方針

日本化学は、「**人を大切に、技を大切に**」を企業理念としています。この企業理念に基づき製品の開発・製造・流通・使用・最終消費・廃棄に至るまでの全段階において、環境の保全と安全の確保に配慮し、持続可能な社会と環境の実現に貢献します。

日本化学社員行動指針

（項目のみ抜粋）

当社は、コーポレートガバナンス、法令の遵守を徹底するため、「日本化学工業社員行動指針」を制定し社内外に公表しています。

① 法令等の遵守

② 公正で自由な競争の維持、促進

③ 健全で良好な取引先や関係先との関係維持

④ 知的財産権の保護

⑤ 情報の開示

⑥ 反社会的勢力との絶縁

⑦ 地域貢献

⑧ 優れた製品とその取り組み

⑨ 製品の安全な取扱い

⑩ 安全で健康的な職場環境の確保

⑪ プライバシーについて

⑫ 差別的取扱いの禁止

⑬ 環境の保護

改訂　２００６年１２月１５日

レスポンシブル・ケア基本方針

１．法規制の遵守

環境保全・保安防災・労働安全衛生及び製品安全について、国内外の法規制を遵守するとともに、国際関係機関・国内外の行政機関及び非政府団体等に協力します。

２．環境を配慮した安全操業

事業活動において、環境に配慮し、操業については従業員や市民の安全と健康を守り、事故・災害・公害を起こさないよう努めます。

３．安全な製品と情報の提供

製品の研究・開発から製造・販売を経て廃棄に至るまでの全段階で、環境保全・安全確保について評価を行い、環境負荷の少ない安全な製品を提供するとともに、製品の安全な使用と取扱いに関し、顧客に必要な情報を提供します。

４．省資源・省エネルギー

環境を保全するために、製品の企画段階で、省資源・省エネルギー、廃棄物削減等に配慮した技術の開発に努めるとともに、生産活動において、資源やエネルギーのより一層の効率的な使用や再利用に努めます。

５．自主監査の実施

各部門の環境保全・安全確保対策の実施状況は社内監査により評価し、継続的に改善を図ります。

６．全社員の責任の自覚と社会との信頼の向上

これらの理念・方針に基づき、経営者から社員一人一人にいたる全員が自らの責任を自覚し、環境保全・安全確保対策を推進し、社会との信頼性の向上に努めます。

制定　１９９７年４月１日

ＲＣマネジメント

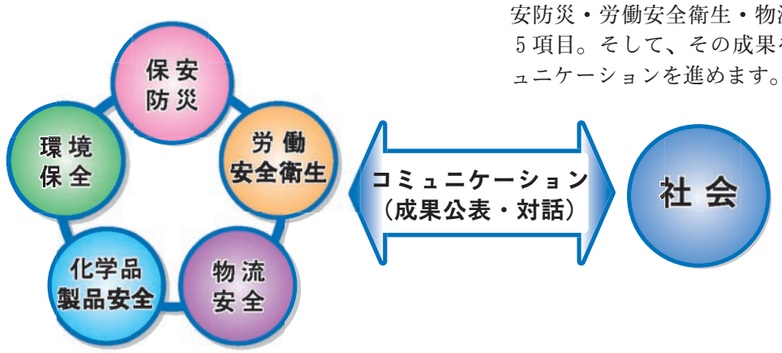
レスポンシブル・ケアとは

レシポンシブル・ケア（ＲＣ）とは、化学物質を製造または取り扱う事業者が、自己決定・自己責任の原則に基づき、化学物質の開発から製造、流通、使用、最終消費を経て廃棄に至るまでの全ライフサイクルにわたって「環境保全・保安防災・安全及び健康」の確保を経営方針において公約し、社会との対話を通して信頼を深めていく自主管理活動です。

レスポンシブル・ケアは、１９８５年にカナダで誕生し、１９８９年に国際化学工業協会が設立され、この活動は世界６０ヶ国を超える諸国で展開されています。

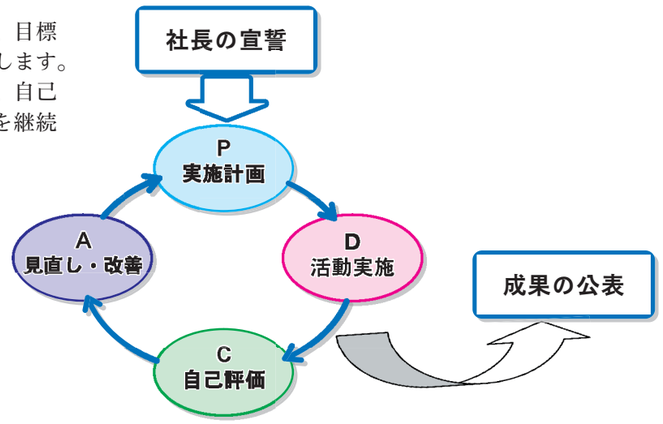
レスポンシブル・ケアの実施項目

レスポンシブル・ケアの実施項目は、環境保全・保安防災・労働安全衛生・物流安全・化学品製品安全の５項目。そして、その成果を公表して、社会とのコミュニケーションを進めます。



レスポンシブル・ケアの進め方

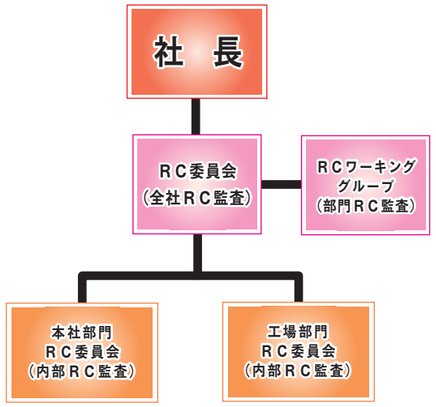
レスポンシブル・ケアは経営トップの宣誓と、目標の設定に基づき、ＰＤＣＡサイクルに沿って実施します。計画の作成（Ｐｌａｎ）、活動の実施（Ｄｏ）、自己評価（Ｃｈｅｃｋ）、見直し・改善（Ａｃｔ）を継続して進めていきます。



レスポンシブル・ケア活動体制

レスポンシブル・ケアの推進組織体制は、ＲＣ委員会（社長を委員長とし、役員が構成メンバー）を全社ＲＣ統括機関とし、その下に本社部門ＲＣ委員会と４工場それぞれの部門ＲＣ委員会の計５部門からなる組織で構成されています。

ＲＣ推進組織



・全社ＲＣ監査

毎年６月末までに全社のＲＣ実施状況の取り纏め、次年度活動計画を立案してＲＣ委員会に諮り、前年度ＲＣ活動の総括、次年度計画案の承認を受けています。

・部門ＲＣ監査

各部門での取り組み状況について、レスポンシブル・ケア ワーキンググループ（ＲＣ担当役員、生産技術部のＲＣ部門担当者）は各事業所所在地で環境安全管理状況の監査を行います。この結果は、各部門ＲＣ委員会にフィードバックされ、各部門の目的・目標や計画に反映させています。

・内部ＲＣ監査

本社、工場の各部門が自らのＲＣ計画の達成状況を自己評価し、次年度の部門の目的・目標や計画に反映させ、継続的改善を図っています。

ＩＳＯ等への対応

VOICE

福島第一工場
技術課
荒瀬 龍也

【ＩＳＯ審査後の審査員による説明会】

今回の環境内部監査説明会を受講して改めて「効果的な内部監査の方法」や「発見力を高めるには？」、「監査実施の手順」といった内容の説明を聞きました。その少し前に福島第一工場と第二工場との間で環境のクロス内部監査があり、私自身初の監査員を経験して監査の難しさを感じた後であったので、復習や不足していた部分を確認しながら受講出来たと思います。

この説明会で学んだ事を活かして次回はさらに一歩踏み込んだ内容の監査になるように励みたいと思いました。

VOICE

徳山工場
開発課
高木 良太

【ＭＳの内部監査員になって】

今回内部監査員講習を受講して、マネジメントシステムの基礎から監査のやり方までを、演習を通しながら学びました。品質や環境はプロセス（仕組み）で作り込むというマネジメントシステムの基本的な考え方は特に参考になりました。

マネジメントシステムが原則に基づき運用されているかを確認し、改善の機会にするという内部監査の目的をしっかり意識しつつ、効果的な監査になるよう経験を積んでいきたいと思います。

保安防災への取り組み

防 災 訓 練

・愛知工場

第３３回自衛消防隊消火技術競技会

愛知工場では、積極的な訓練を展開し、有事の際における外部への環境影響を最小に抑えるとともに、会社の財産である従業員及び設備の被害も最小限に抑える取り組みを強化しております。その中の一つが自衛消防隊の活動であり、例年地域の自衛消防隊消火技術競技会に参加をしております。

競技会出場選手は、現業部門と管理部門から選出され、初参加者と過去に参加経験のある選手で構成されております。練習は、過去の競技会ビデオを確認することから始まり、競技操作要領の確認と基本動作を繰り返します。最初はとても競技会に臨める状態ではありませんでした。練習を重ねる毎に上達していきましたが、完璧とは言えない状態のまま大会当日を迎えました。

当日は、周りからの激励や応援を受け励みとなり、初参加の選手もいる中ミスもなく、安全で正確かつよりスピーディーに競技をすることができました。本番では練習で習得した技術を１００％以上発揮できたのではないかと思います。その結果、団体総合優勝と非常に喜ばしい成績を収める事が出来ました。また、種目別競技においても、救助消火競技で優勝、放水競技で準優勝と好成績を収める事が出来ました。

これからも、競技会で得た経験を基に、無事故・無災害の安全な職場作りに貢献していきたいと思います。また、来年以降も安全で正確かつよりスピーディーに操作できるように練習を重ね競技会に臨みます。

自衛消防隊長　坊野　巌

VOICE

愛知工場
製造課
澤田 剛一

【１位になるための苦労話】

救助消火競技に出場する事になり、競技会に向け練習開始から気合十分でしたが、アラフォーの体は正直でなかなか足が動きませんでした。

そこでポイントを絞った効率的な練習方法を皆で話し合い実践しました。時間短縮をする為、無駄な動きをしない。一つ一つの動作を流れにのって動く事としました。最初は上手く行きませんでしたが、練習を重ねる毎に息も合うようになり、基準タイムを切る回数も増えてきました。

競技会では練習の成果を発揮でき見事優勝を成し遂げました。また、もう一つの放水競技も見事準優勝し団体競技で総合優勝する事が出来ました。

今後、有事の際には今回習得した技術を活かし、迅速に行動したいと思います。

・徳山工場

高圧ガス保安経済産業大臣表彰を受賞して

平成２６年１０月１４日、経済産業大臣より、高圧ガスの製造における各施設の構造、設備及び製造の方法に関し、保安上の措置が特に優れている事業所として「平成２６年度高圧ガス保安経済産業大臣表彰」を受賞しました。

徳山工場では、創業以来継続的に保安防災活動へ取り組み、高圧ガスに係わる災害については、４０年以上無災害を継続しています。

表彰状

日本化学工業株式会社
徳山工場　殿

貴製造所は高圧ガスの製造において災害の防止に格別の努力をされその成績が特に優秀と認められます
よってここに表彰します

平成二十六年十月十四日
経済産業大臣　宮沢洋一

・本 社

消防訓練の実施

毎年消防訓練を実施していますが、昨年発生した小火の教訓を活かして、今年は迅速な「通報」、「避難誘導」、「防火扉の模擬稼働」、「ハンカチを口に当てての避難」を意識して、消防署の立会いのもと訓練を実施しました。今回は全体的に迅速でメリハリのある訓練となりました。

・福島第一工場

防災訓練について

今回の訓練は、従業員が決められた通りに行動出来るかどうかの確認に主眼を置き、火災を想定した防災訓練を実施しました。

「緊急時の連絡」、「災害対策本部の設置」、「自衛消防隊の出動・消火」、「怪我人の応急処置」等、決められた役割と手順が問題なく機能するかを確認することで万一に備えています。

放水訓練

災害対策本部の設置

応急措置

地域とのつながり

地域社会への貢献

・地域住民との対話集会

環境保全連絡協議会の開催（福島第二工場）

福島第二工場では、２００３年以降定期的に地域の代表者の方々(区長の皆様）と「環境保全連絡協議会」を開催し、今年で１２年を迎えることができました。

ここでは、事業活動で消費したエネルギー量やそれに伴い発生した大気汚染負荷物質排出量等の環境報告、また、地域ボランティア活動や防災訓練の様子などを紹介して、工場見学のあと意見交換を行っています。

最近では、ＳＯｘ、ばいじん、ＣＯＤ等の環境用語についての説明もさせて頂いています。区長の方々も熱心に耳を傾けておられ、当社の環境活動に対して関心が高くなっていることも分かりました。

これからも地域の方々とのコミュニケーションを大切にし、地域に密着した工場運営を目指します。

集合写真！

対話集会の開催（福島第一工場）

２０１４年１１月７日に３年ぶりとなる地域住民との対話集会を行いました(参加者は１６名)。

工場の概況説明、工場見学、質疑応答という内容で、環境については、工場内の排水・廃棄物の処理ルートを説明し、実際に排水処理を行っている所を見学して頂きました。今回参加された方々には概ね好評で、工場の様子を理解して頂けたと思います。

今後も工場の事を知ってもらうため、定期的に対話集会を開催する予定です。

・地域ボランテイア活動

「まちと森と水の交流会」に参加して（徳山工場）

この活動は市民の生活や企業活動に欠かせない水源を確保するため森林整備の必要性を理解することを目的とし、毎年山口県周南農林事業所主催で実施されています。

今年も周南市須々万の森林公園「ふれあいの森」で開催された「まちと森と水の交流会」には、県や市の関係者、地元コンビナート企業の方々、自治会の皆さんを含め総勢３５０名が参加されました。

当日はやや肌寒くなってきた１０月中旬、午前中は木々がより大きく育つように間伐や枯れ木の撤去などを行い、汗ばむころには薄暗かった雑木林も徐々に日の光が差し明るくなりました。作業が終わり閉会式の後は自治会の方々が用意して下さった炊き込みご飯やふるさと汁をいただき疲れを癒しました。

スポーツＧＯＭＩ拾い（本社）

スポーツＧＯＭＩ拾いｉｎ商店街（東京都広域支援型商店街事業　２０１４魅力発信プロジェクト）に本社ＲＣ事務局で参加しました。

「地元の商店街をチームでキレイに♪」を合言葉に、チームで力を合わせ、制限時間内に定められたエリアで、ゴミの種類と量をポイントで競い合うスポーツ感覚のゴミ拾いです。本社のある江東区は亀戸十三間通商店街が会場です。ゴミは、可燃物・不燃物・リサイクル・タバコの吸い殻の４種類でそれぞれ１００ｇ１０点で、合計点で勝敗が決まります。

大人６人で参加し、優勝は間違いなしと自信満々で亀戸駅まで戻ってきましたが、順位は後ろから数えた方が早かった・・・。

悔しい結果ではありましたが、楽しみながら地域貢献活動が出来ました。最後に亀戸駅前公園のカメの三段重ねの噴水の前で参加者全員で記念撮影。拾ったゴミの山は噴水の高さ近くまでありました。

カメの三段重ね！！

富貴地区水辺クリーンアップ大作戦！！（愛知工場）

６月２７日、富貴地区水辺クリーンアップ大作戦に参加しました。工場からゴミを拾いながら歩き、程なくしてボランティア会場である水辺が見えてきました。会場は地域周辺の企業の方々や小中学生でいっぱいでした。整列してみると、企業の中では日本化学が一番参加者が多かったです。

水辺の近くから少し離れた街中まで各々散らばり、ゴミ拾いの開始です。様々なゴミがありましたが、たばこの吸い殻や飲食物の空容器等が目立ちました。参加者が多かったこともあり、ゴミ拾い終了後の水辺一帯はとても綺麗な状態になりました。

今後も、綺麗な水辺を保てる地域であって欲しいと感じた一日でした。

化学物質の安全管理

当社は創業以来１２０余年にわたり、多くの化学物質や化学製品を製造してきました。それらの多くは他社で更に加工され、我々の身の回りの製品として便利かつ豊かな社会の実現に寄与しています。しかしながら、どのような化学物質もその取り扱い方法によっては、環境や人への健康に影響を及ぼす可能性があります。
当社では、化学物質の安全管理への取り組みを強化し、そのリスクを可能な限り小さくする活動を積極的に推進しています。

製品安全への取り組み

・愛知工場

食品安全について（フードディフェンスの強化）

愛知工場では食品添加物である燐酸、燐酸塩を製造しており、化学会社としての品質管理だけではなく食品会社としての管理体制も求められていることから、対象は燐酸のみではありますが、２０１２年１月に食品マネジメントシステムであるＦＳＳＣ２２０００を取得し活動しています。

しかしながら、昨今は故意による毒物混入事件など日本の食品企業ではあまり想定されていなかった事件も発生し、食の安全に対する関心の高まりから、最悪のケースを想定した危機管理を要求されるようになりました。このような社会的要求に対応すべく愛知工場としても、食品防御（フードディフェンス）についての管理強化を進めています。具体的には「入室管理の徹底」、「薬物管理の強化」、「防虫管理の強化」、「カメラの設置」等に取り組んでいます。

事実、食品製造工場であるとの認識が甘い部分もありました。しかし、食品認証の取得をしたことにより①食品安全管理の信頼性を獲得、②消費者に与える企業イメージの向上、③ビジネスチャンスの拡大、④リスクマネジメント・コンプライアンス機能の強化、⑤食品安全に関する社員の意識向上、に繋がったと考えています。

今後も食品マネジメントシステムを有効活用して、お客様に安全で安心な食品添加物を製造し、顧客満足の向上に努めていきます。

これまで配ってきたビラ

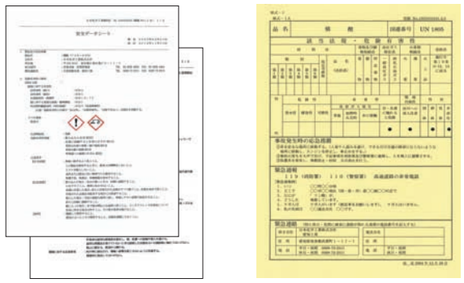
VOICE

愛知工場
検査室
石部 久美

【活動を振り返って】

２０１２年。歴史ある化学工場に『食品安全』と言う、小さな『種』を蒔きました。一年一年が、試行錯誤の繰り返し。毎月、現場に足を運んでのパトロール。月に何度も会合を開き、8月の『食品衛生週間』の時は、早朝からのビラ配布。
そして、もうすぐ４年。やっと従業員の皆さんの心に、小さな小さな花が咲き始めたように感じます。大輪の花に育つまでには、まだまだ時間が掛かりますが、これからも努力していきたいと思います。

ＦＳＳＣ　２２０００　登録証



ＧＨＳ対応ＳＤＳとイエローカード

ＷＳＳＤ目標に向けて

化学物質に関する規制は年々厳しくなっています。化学物質によるリスクを削減する取り組みは数十年前から国際的に行われていて、数回にわたり国際会議が開催されてきました。２００２年のＷＳＳＤに関する国際会議で、２０２０年までに化学物質のリスクを最小化することが採択されました。

化学物質のリスク最小化は国際社会、産業界全体で取り組む必要があり、当社でもＷＳＳＤに関する項目を品質方針に組み込み、会社として取り組んでいます。

ＷＳＳＤや環境負荷物質などについて、４月から社内の周知を図るために各事業所で教育を実施し、理解を深めました。

サプライチェーンをさかのぼり、製品中の管理対象物質の情報提供を求められることが多くなり、ＳＤＳやＧＨＳラベル、ＭＳＤＳｐｌｕｓ等で当該製品のリスクについて、サプライヤー－当社－お客様間で情報伝達しています。

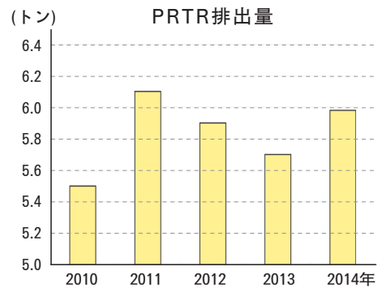
今後も会社として、２０２０年までに化学物質のリスクを最小化できるよう、引き続き取り組んでいきます。

ＷＳＳＤ説明会

ＰＲＴＲへの取り組み

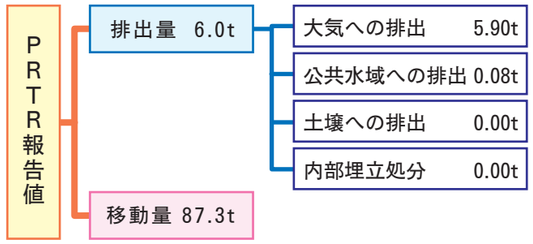
ＰＲＴＲ法とは、化学物質の環境への排出実態の把握・管理を自主管理することで、環境汚染を未然に防止するのを目的に制定された法律です。

また（一社）日本化学工業協会のＰＲＴＲ調査にも、１９９５年以降参加しています。今後も排出量の削減に努めていきます。



２０１４年度のＰＲＴＲ排出量全社合計

届出物質　２２物質
環境排出量　６．０ｔ



【用語解説】
ＷＳＳＤ　持続可能な開発に関する世界首脳会議
（World Summit on Sustinable Developement）：
２００２年９月に南アフリカ共和国のヨハネスブルクで開かれた国際会議。この会議で化学物質が、人の健康と環境にもたらす著しい悪影響を最小化する方法で使用、生産されることを２０２０年までに達成することを目指すことが採択された。

製品含有化学物質管理：
種々な製品が廃棄・リサイクルされた後、その後の処理に引き起こす可能性がある。製品にどのような化学物質がどのようなリスクを有するかを把握し、管理することが重要となる。化学物質の製造から最終製品の廃棄に至る製品ライフサイクルの全過程において、サプライチェーンに沿ってそれぞれの事業者が使用する化学物質やその取扱い上の注意等の情報を共有することによって、化学物質によるリスクを最小化する取り組み。

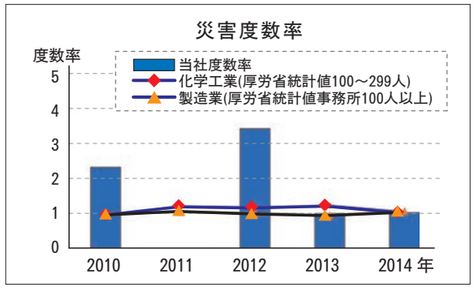
PRTR(Pollutant Release and Transfer Register)：
化学物質排出移動量届出制度のこと。有害性のある多種多様な化学物質が、どのような発生源から、どれくらい環境中に排出されたか、あるいは廃棄物に含まれて事業所の外に運び出されたかというデータを把握し、集計し、公表する仕組み。

労働安全衛生活動

労働安全衛生への取り組み

２０１４年度の災害度数率は、化学工業（事業所規模１００～２９９人）が1.０４、製造業（同１００人以上）が1.０６に対し、当社は1.００となりました。昨年と同様の結果ではありますが、事故や災害は発生しており、一歩間違えれば重大事故に至っていたかもしれません。

従来からの安全衛生活動は継続しつつ、あらゆる事象に対して「他山の石」と捉え、問題意識を持つことが大切です。また、定着してきた「見える化」については、見えることで瞬時に正しく行動できること、見えることで潜在化した問題が明らかになる等、生きた見える化を目指します。



災害度数率
災害発生による100万労働時間当たりの災害による死傷者数をあらわしたもの

工場での安全活動

・愛知工場

危険体感訓練の実施

今回の危険体感訓練は、「座学」を取り入れた訓練を実施しました。１回１０人前後の受講者で、従業員、関連事業所の方々全員に受講して頂きました。「座学」は安全について受講者と色々と話し合い、最後にビデオによるリスクアセスメントを行ない、ビデオから感じた危険要因を受講者一人一人から１点報告をして貰いました。

また、体感訓練では経験のある方は、比較的余裕をもって訓練に臨んでいましたが、初めての方は「こんな危険があり、こんな事になってしまうのだ」と、驚きと感心を持ちながら体感していました。体感を訓練で終わらせる事なく、日常作業の中で体感した事を活かせて頂きたいと思います。

・徳山工場

安全衛生チェックパトロールの実施

徳山工場では毎月、安全衛生年間計画に基づき現業部門、検査室及び構内常駐協力会で場内を６ブロックに分け、チェックパトロールを行っています。結果については、報告書を指摘された部門へ提出、是正報告を記入後、管理職回覧となり安全衛生に役立てています。

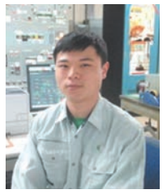
以前は、指摘箇所のみの報告でしたが、良好な場所についても報告し他の職場の参考になればと思います。課題としては、同じような指摘が繰り返されていることもあり、水平展開がうまくいっていないのではと感じています。

今後も安全衛生委員会で周知し安全で衛生的な職場を目指したいと思います。

◆労働安全衛生活動

健康で安全な職場つくり

VOICE



徳山工場
製造課
平岡 淳一

【平成２６年度ヒヤリ・ハット提案賞を受賞して】

今回のヒヤリ・ハット報告は、雨天時に場外から工場内へ入ったフォークリフトの運転中に発生しました。工場内で徐行していたにもかかわらずタイヤがスリップし、荷崩れを起こしそうになりヒヤリとしたというものでした。上長に「床面の滑りを防止できるものがないか」と調査をお願いしたところ、滑り防止効果があり、衝撃や摩耗に強い防滑塗装というものがあることを知り、改善提案書を提出しました。防滑塗装の施工後は雨の日もタイヤのスリップもなく、安全にリフトの走行や歩行ができるようになりました。又、各職場で水平展開され、他部門にも同様の防滑塗装が施されました。まさにヒヤリで済んだこの教訓を全員で共有できて良かったと思います。

【ストレスチェックセミナーを受講して】

２０１５年１２月より、労働安全衛生法の一部改正により、 従業員が５０名以上いる事業場においてストレスチェックが義務化となりました。この制度は各個人が抱えるストレスによる不調を未然に防ぎ、健康を守ることを目的としています。ストレスチェック制度がこれまで把握することが難しかった職場における労働者のストレスをとらえ、元気な職場・働きやすい職場環境づくりの大きな助けのひとつになることを期待し、今後対応していきたいと思います。

愛知工場
事務課
三井 拓也

福島第二工場
事務課
石幡 千穂

【健康セミナー女性の働き方に参加して】

女性の活躍が推進され、結婚・出産後も働き続ける女性が多い中、家事と仕事との両立には職場の理解・協力が不可欠だと思います。

そのために周りとのコミュニケーションを取ってお互いの状況を理解し合い、気兼ねなく休暇等を取得できるような雰囲気になれば良いと思います。家事と仕事を両立することは大変ではありますが、どちらか片方のみを行うより、心身共に充実し健康に繋がるとの内容が印象的なセミナーでした。

環境パフォーマンス

地球温暖化や資源の枯渇などの地球環境問題は人類共通の大きな課題です。
当社では、次世代へ豊かな自然や生活環境を残すため、環境負荷の低減、省エネルギーなどについて積極的に取り組んでいます。
また同時に、地域住民の方々や従業員の安全と健康の確保と環境の保護を前提に事業活動を行うことは企業の社会的責務と認識しています。従業員一人ひとりがＲＣを意識して活動を推進していきます。

２０１４年度の事業活動に伴う環境負荷

当社の２０１４年度の事業活動に伴う主な環境負荷の概況を以下に示します。

Input

エネルギー投入量（原油換算）

総　量	28,749 KL／年
燃　料	12,711 KL／年
購入電力	6,402 万 kWh

水資源利用量

174万 m^3／年

原材料購入

58,395 t／年

Output

CO_2 排出量（t／年）

総　量	64,713 t／年
燃　料	32,019 t／年
購入電力	32,694 t／年

大気への放出

ＳＯｘ排出量	3.5 t／年
ＮＯｘ排出量	13.2 t／年
ばいじん排出量	2.2 t／年
ＰＲＴＲ物質	5.9 t／年

水域への排出

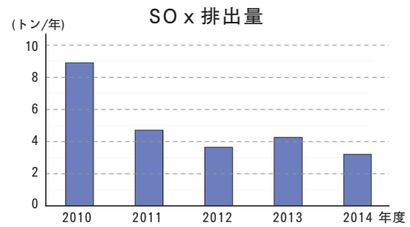
排水量	192万 m^3／年
ＣＯＤ排出量	9.1 t／年
窒素排出量	31.7 t／年
りん排出量	6.7 t／年
ＰＲＴＲ物質	0.1 t／年

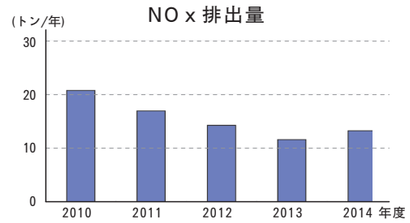
廃棄物発生

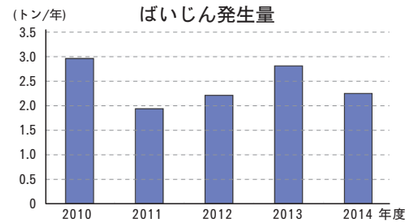
副産物発生量	11,133 t／年
再資源化量	3,111 t／年
最終埋立処分量	1,222 t／年

２０１４年度は福島第二工場で小規模爆発、今年６月には徳山工場でＮＯｘガス漏洩事故が発生し、近隣住民の皆様、関係当局の皆様、お客様をはじめとする多くの方々に多大なご迷惑をおかけしました。
いずれも再発防止策を講じて直ちに対応しております。今後も、事故の再発防止に万全を期して操業いたします。

大気汚染防止への取り組み

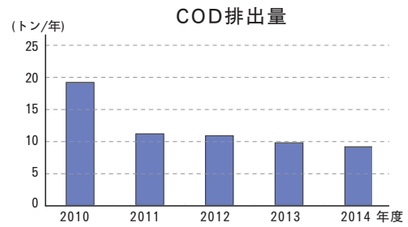




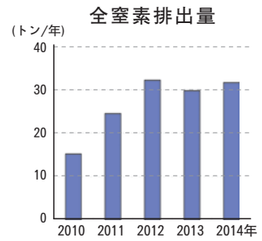


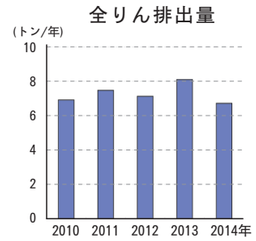
愛知工場のＬＮＧへの燃料転換等により、２０１１年以降、ＳＯｘ、ＮＯｘ、ばいじんともに僅かに減少傾向にあります。今後も対象設備の管理強化、クリーンエネルギーへの変換と有効利用の検討により大気汚染物質の排出量削減に努めていきます。

水質汚濁防止への取り組み



公共水域へのＣＯＤ排出量は、２０１１年以降減少傾向にあります。有機化合物を生産している福島第二工場の稼働率、生産品目の変化による影響が主な要因と捉えています。
また、全窒素・全りんの排出量についても、福島第二工場の生産品目の影響によるものです。今後も継続的に設備等の改善を行い削減に努めます。





【用語解説】

SOx（硫黄酸化物）：
重油、石炭等の燃料を燃焼させる際に、燃料に含まれる硫黄が酸化され、二酸化硫黄、三酸化硫黄として、燃焼排ガスと共に排出される。これらの硫黄酸化物（SO_2、SO_3）の総称。

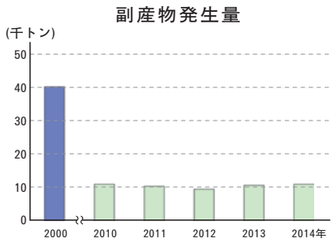
NOx（窒素酸化物）：
各種燃料の燃焼、電気炉、自動車のエンジン等で空気中の窒素が高温で酸化を受け、一酸化窒素、二酸化窒素等の窒素酸化物を生成する。これらの窒素酸化物（ＮＯ、NO_2、N_2O_3）の総称。

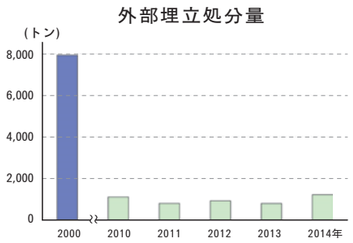
ばいじん：
大気汚染防止法の規制対象物質で、燃料、その他の物の燃焼または熱源としての電気の使用に伴い発生する、ススや燃えかす等の固形粒子状物質の総称。

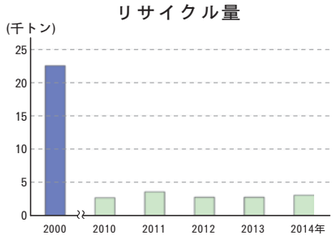
ＣＯＤ(Chemical Oxygen Demand)化学的酸素要求量：
有機物による水質汚濁の指標。排水中の有機物を酸化剤（過マンガン酸カリウム）で化学的に酸化するときに消費される酸素の量。

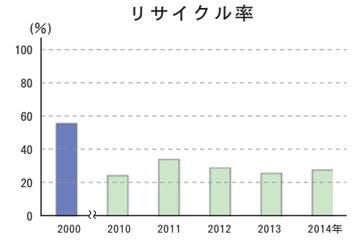
廃棄物削減への取り組み

（一社）日本経団連の廃棄物削減目標は、２０１５年までに埋め立て処分量を２０００年比６５％にすることですが、当社は既に２００７年に達成しております。２０１４年度は微増となっていますが、製品の再配置検討、設備撤去等での一時的な発生によるものが原因となっています。製造工程で発生する副産物については、可能な限り原単位などの見える化によって検討し、工程原料としての再利用や有価物としての利用価値を提案し、発生量を抑えています。また、外部処理を行ってきたものについては、リサイクルを念頭に置いた処分先の見直しを進めています。今後も３Ｒを積極的かつ計画的に推進し、廃棄物の減量化を図ります。









リサイクル率　：　廃棄物の発生量に対して、リユース（再使用）とリサイクル（再資源）した量の比率。

・徳山工場

廃棄物の適正処分

解体工事で発生した廃棄物は分別と洗浄を徹底し適正に処分します。

徳山工場では生産方法の変更に伴い、これまで工場の主力として活躍してきた種々の設備の撤去工事を行っています。撤去工事ではユーティリティー、消防用設備、ネットワーク配線等予め綿密に調査し、他工程へ影響が出ないよう調査を行う必要があります。また、配管内やタンク内に残液・残ガスが無いことを十分に確認し作業者への安全配慮が必要となります。

撤去工事は新設以上に労力を伴うと言われますが、各部に協力頂きながら安全、確実に作業を進めています。

VOICE

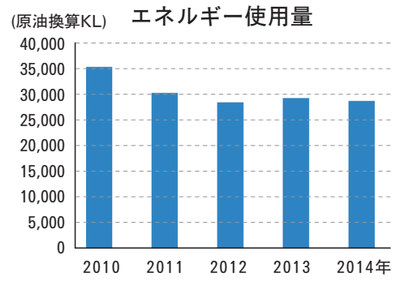
福島第一工場
環境安全・品質保証課
遠藤　努

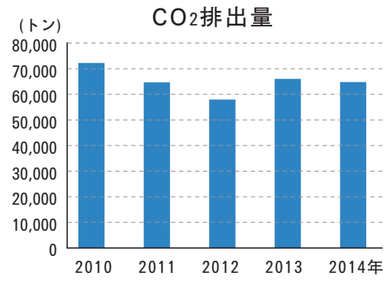
【廃棄物削減を目指して】

工場から発生する産業廃棄物は大まかに分けると８種類あり、稼働率にもよりますが排出量は年間約１７００トンとなります。それらを削減する方法として、まず、はじめに種類毎に発生量原単位を求めました。その数値を毎月のＲＣ委員会で報告し、従業員の削減への意識向上を図りました。また、各部署では削減方法の検討を行って頂き、その結果、汚泥と陶磁器屑の排出量削減に取り組んで頂き、発生量原単位で前年度比約５．６％を削減することが出来ました。現在もこれらの取り組みは継続して行っており、更なる削減を目指しています。

省エネルギーの推進

・エネルギー使用量とＣＯ２排出量





今年より新たに（一社）日本化学工業協会で化学企業の２０２０年削減目標の「低炭素社会実行計画」を公表しました。当社も会員企業として参加し活動しています。２０１４年度はエネルギー使用量、ＣＯ２排出量ともに微減しました。各事業所でのエネルギー使用設備の自主点検、自主診断、省エネ提案などの積極的な活動も定着し、省エネ意識は向上しています。今後もこまめな省エネの積み重ねで、継続的な活動を推進していきます。

夏の日差しを遮ろう！！

福島第一工場の緑のカーテン

エアコンの消費電力を抑える省エネ効果がある緑のカーテン。上手に育ちました！

守衛所

事務所

ＲＣ監査で見つけた「見える化」

レスポンシブル・ケアワーキンググループでは、毎年各部門でのＲＣ実施状況について監査を実施しています。ここ数年、力を入れて取り組んでいる「見える化」を中心に工場見学でのスナップをご紹介します。

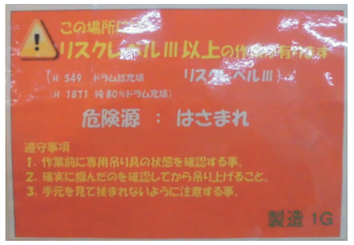
愛知工場の見える化

“見える化の推進”について

愛知工場の平成２７年度安全衛生年間計画において、「５Ｓの活性化」を取り上げました。従来からの５Ｓパトロールの指摘箇所の改善に加え、職場の更なる“見える化の推進”を掲げました。見える化は以前からも実施されていましたが、個別毎の活動が多かったことを踏まえて、工場全体で共用できるよう活動を推進しました。

見えることによって 気づきが生まれ、 無意識に５Ｓや安全を意識した行動に繋がると言われています。快適な職場作りに役立て、ゼロ災職場を目指していこうと考えています。

★ リスクレベルⅢ以上の残留リスクの注意喚起標示の掲示（１９箇所）



★ 保護具着用写真の掲示（１１５箇所）
災害発生箇所、危険作業・充填・サンプリング箇所を中心に薬傷発生の可能性の高い場所

★ ５Ｓ管理担当者の写真掲示（６８箇所）
各職場エリア毎に管理担当者を決め、担当者の写真と共に注意事項等を記載

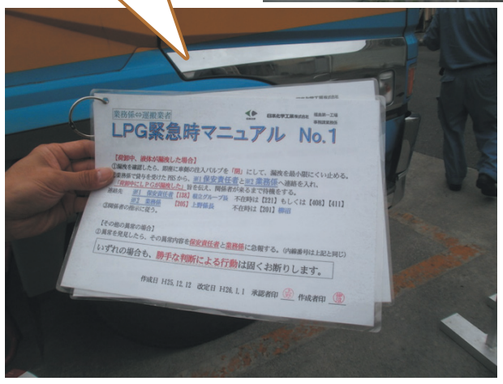
緊急資材置き場も整理整頓！

徳山工場の見える化

黄色で識別！
危険箇所！

福島第一工場の見える化

荷卸中の運転手さんに見せてもらいました。



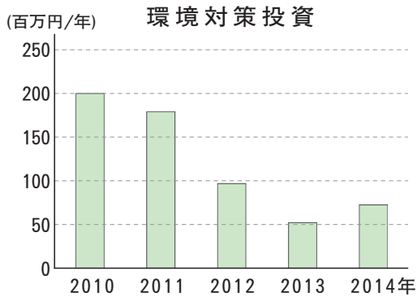
福島第二工場の見える化

一目で分かる大きな看板で再発防止！

環境会計

環境安全対策投資

環境保全と安全確保を重要課題と捉え、積極的に環境安全対策への投資を行っていきます。



夏の日差しを遮ろう！！

福島第二工場の
緑 のカーテン

過去３年程、グリーンカーテンとして朝顔を栽培しました。朝顔はカーテンにはなりますが、正午位になると葉がしおれてしまい、カーテンとして不充分と不評でした。　今年は朝顔だけでなく、収穫を期待してスイカ、メロン、ゴーヤ、ヘチマ、キュウリを栽培しました。しかし、グリーンカーテンといえる様に育ったのはゴーヤと朝顔の２つだけ。それでも、ヘチマ以外は沢山の収穫があり、おいしくいただきました。小さな実がなると嬉しくなって、どうしても収穫優先？に心が動いてしまい、充分なカーテンにはならずじまいでした。来年以降は、グリーンカーテン優先（できれば収穫も）での栽培を模索したいと思っています。

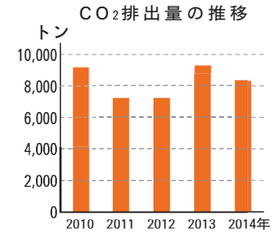
サイトレポート

徳 山 工 場

所在地：〒745-0024
山口県周南市晴海町1-2
主な生産品目：クロム化合物、中性無水芒硝、
バリウム化合物

工場長
石川 賢一

◆ＲＣ目標
1.緊急時の即応体制の強化
2.大気放出物質の管理強化
3.総合排水の管理強化
4.エネルギー原単位の低減
5.タンク・貯槽・配管からの漏洩事故防止
6.場内廃棄物の適正処理
◆安全衛生目標
1.Ｖ―ＲＡ推進によるリスク低減
2.快適な職場環境の構築



徳山工場環境安全・品質保証課はメンバー４名で、日々ＲＣ活動の発信を行っております。工場全体へ協力をお願いすることも多く、他の課のみなさんに助けてもらいながら活動を進めています。
これからも、コミュニケーションを大切にし、ＲＣ活動が上手に回る「環境にやさしい工場」を目指し活動を続けていきます。

ＲＣ事務局メンバー
井上　藤井　宮本　立石

本　社

所在地：〒136-8515
東京都江東区亀戸9-11-1

執行役員
研究開発本部長
愛川 浩功

◆ＲＣ目標
1.法令に基づく化学物質の適正管理
2.保安防災体制の見直し
3.地域社会貢献活動の見直し
◆安全衛生目標
【安全】
1.安全衛生意識の高揚
2.防災訓練の見直し

総務人事部・生産技術部・研究管理部から構成された本社ＲＣ事務局は、レスポンシブル・ケア活動を通じて、環境・安全の改善、周辺地域への社会貢献を行っています。また化学薬品メーカーとして関連法規の遵守はもとより、活発なコミュニケーションで関係各位の協力を得て活動していきたいと思います。

ＲＣ事務局メンバー
林　金井　田口　大原　河谷

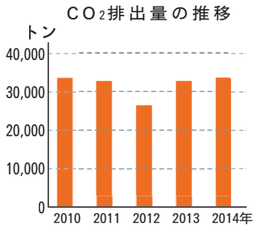
サイトレポート

福島第一工場

所在地：〒963-8812
福島県郡山市松木町2-25
主な生産品目：電子セラミックス材料、電池材料
回路材料、高純度炭酸バリウム

工場長
根岸 克幸

◆ＲＣ目標
1.廃棄物の低減を図る（環境負荷低減）
2.省エネルギーの推進
3.漏洩事故の撲滅
◆安全衛生目標
1.決められた手順とルールを守り、着実な作業を行う
2.作業の中に潜む危険を予測・共有し、事故や災害を未然に防ぐ
3.気持ちの上手な切り替えとコミュニケーションで、ストレスに負けない心を養う
4.食生活の見直しと規則正しい生活リズムで健康維持、改善に努める



ＲＣ事務局メンバー
遠藤　上本　根立

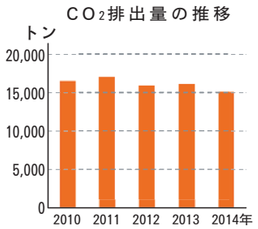
福島第一工場では、「工場外部への漏洩事故；ゼロ件」「側溝漏洩発生件数；前年度比５０％減」を目標に掲げ、現在も防液堤の設置など漏洩対策を積極的に進めています。
また、ＲＣ事務局では毎月各職場の安全衛生職場会に参加し、更なる意識向上に向けコミュニケーションを図っています。今後も活動を通してＲＣへの理解を浸透できればと考えています。

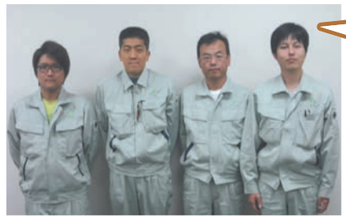
福島第二工場

所在地：〒963-7741
福島県田村郡三春町字天王前３
主な生産品目：有機リン系化合物、赤燐、
有機ホスフィン誘導体、次亜リン酸ソーダ

工場長
奥山 文彦

◆ＲＣ目標
1.臭気苦情の撲滅(近隣住民から苦情ゼロ）
2.廃水中の溶剤流入防止（危険物管理の徹底）
3.産業廃棄物の削減（処理方法の改善）
4.省エネの推進（省エネ委員会での取り組み）
5.ＲＣ活動意識向上
◆安全衛生目標
【安全】
1.安全指導事業所指定からの完全取り組み
2.作業前のＫＹ実施
3.指差呼称の実施（重点箇所）
4.５Ｓの推進
【衛生】
1.作業環境の点検整備
2.身体と心の健康維持





ＲＣ事務局メンバー
伊藤(辰)　堂　成田　猪俣

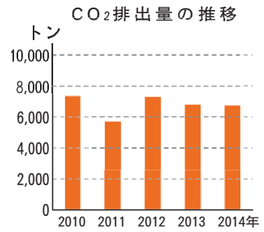
環境、安全そして品質保証に関連する業務を管掌する環境安全・品質保証課は「かんぴん課」と呼ばれており、成田課長、猪俣氏、伊藤（辰）氏そして堂が所属しています。端的に言いますと、環境関連業務を伊藤氏が、品質関連を猪俣氏が担っており、堂は両氏の差配を、成田課長は安全管理者として安全関連の業務に携わっています。

愛 知 工 場

所在地：〒470-2513
愛知県知多郡武豊町字１－１７－1
主な生産品目：燐酸、燐酸塩、塩化燐、無水燐酸、
炭酸リチウム

工場長
高橋 政樹

◆ＲＣ目標
1.産業廃棄物低減のための３Rの推進
2.環境影響の低減のための 異常排ガス・排水の対策強化
3.地域社会貢献活動への参加
4.省エネルギーの推進
5.緊急事態対応の確立
◆安全衛生目標
【安全】
1.安全教育の実施
2.５Ｓの推進
3.指差呼称の実施
4.ヒヤリハットの更なる推進とＫＹＫの完全実施
5.労働安全衛生マネジメントシステムの運用
【衛生】
1.衛生力の向上



近隣に環境影響を及ぼす事故などの発生や法令違反などがあれば、事業そのものにも影響が及ぶため、RC活動は大事な取り組みであります。
ここ最近は人員削減もあり、事務局含めて工場全体で人手が足りていない状況ではありますが、より効率的かつしっかりとした管理をすべく、無駄な事務作業の削減とシステムの見直しに力を入れています。

ＲＣ事務局メンバー
市川　大久保　後藤　滝田

豊かな暮らしのために(製品用途)

化学品部門

主な製品
　燐酸、燐酸塩、塩化燐、炭酸リチウム、
　珪酸ソーダ、珪酸カリ、シリカドール、
　亜酸化銅、無水クロム酸、 酸化クロム、
　３価クロメート剤原料 等

用途
- ① 食品添加物
- ② **樹脂添加物**
- ③ **ﾊｰﾄﾞﾃﾞｨｽｸ表面処理剤（無電解めっき）**
- ④ **洗剤・入浴剤原料**
- ⑤ 光学ガラス材料
- ⑥ 特殊ガラス材料
- ⑦ 溶接棒材料
- ⑧ 顔料
- ⑨ 土壌硬化剤
- ⑩ **めっき薬剤**
- ⑪ **花火材料**
- ⑫ **船底塗料材料**
- ⑬ **新聞紙・用紙材料**
- ⑭ 住宅外壁材料

機能性材料部門（無機製品）

主な製品
　電子セラミックス材料、電池材料、
　回路材料、高純度炭酸バリウム 等

用途
- ⑮ 電子回路材料
- ⑯ **携帯電話用電池・各種電池材料**
- ⑰ 電子セラミックス材料

機能性材料部門（有機製品）

主な製品
　有機燐系化合物、赤燐、
　有機ホスフィン誘導体 等

用途
- ⑱ 液晶部品材料
- ⑲ **医薬品原料**
- ⑳ 難燃剤
- ㉑ 電線被覆材料（難燃剤）
- ㉒ 農薬原料